

■ ごあいさつ

● 高山市長 國島芳明

今回整備した「匠通り」(東西自由通路)やJR高山駅舎では、飛騨産の桧を利用した内装、「飛騨匠の技」を活かした製作物の展示、高山格子をイメージしたパネルの設置と夜間照明による演出など、訪れる方々が期待を持って観光地に赴いていただける空間となっております。

今回の完成により、飛騨三市一村はもちろん、金沢や松本など周辺都市へ続く大きなエリアの利便性の良い新たな玄関口として、また分断されていた駅東西の都市計画や産業構造、コミュニティーの一体化、などまちづくりに良い効果を生むことを期待しております。

● デザイン監修 内藤廣 (建築家・東京大学名誉教授)

街を住まいにたとえると駅は玄関です。鉄道で訪れる人にとって、駅はその街に最初に触れる空間です。この場所の在り方が第一印象として脳裏に刻まれるのです。高山駅では、木をたくさん使って、列車を降りた方が街への期待を膨らませると同時に、ホッと息ができるような温かな空間を創ろうとしました。また、自由通路には伝統工芸の粋を集めた高山の山車のすこさが展示されています。こんな自由通路は全国を見渡しても例がありません。文字通り高山ならではの日本一の自由通路が出来たと思っています。この駅と自由通路は、街の玄関として街造りの一翼を担い、高山の新たな顔になっていくと信じています。

● 屋台展示製作 八野明 (高山・祭屋台保存技術協同組合理事長)

今の時代、屋台を一から新しく作る機会は滅多になく、職人冥利に尽きる仕事をさせて頂き、力が入りました。高山人にとって、屋台がどれほど深く心に入っているか、私も子どもの頃からよくわかっていますから、おかしな仕事はできません。どこまで挑戦できるか勝負したつもりです。

木工は下地ですので、通常は表面に全て漆が施され、完成後は皆さまの目に触れることはありません。今回は制作過程が分かるように白木地の部分も残されていますので、木の姿や漆のかすかな厚みなども見ていただけます。

漆も彫刻も金具も鍛冶も、どの部分も昔ながらの手技で作られた本物なので、展示を通して、こうした手技が今も地元にあることを知っていただき、興味をもっていただければ幸いです。そして、その技や職人が、将来にわたって続いていくように願っています。

自由通路と駅コンコースの平面図



■ 建築概要

<匠通り (東西自由通路)>

延長 約 120m

幅員 6m

バリアフリー施設

エレベーター 2基 (東西各 1基)

エスカレーター 4基 (東西各 2基)

多機能トイレ 1箇所 (東口)

床 御影石 / 壁・天井 飛騨産ヒノキ / 外壁格子 アルミ鋳物

<自由通路新設及び橋上駅舎化工事>

事業主体 高山市

発注監理 東海旅客鉄道株式会社

設計者 ジェイアール東海コンサルタンツ株式会社

デザイン監修 株式会社内藤廣建築設計事務所

施工者 高山駅改築工事共同企業体 (ジェイアール東海建設㈱、㈱熊谷組)

<自由通路内装展示屋台製作>

事業主体 高山市

設計監理 株式会社内藤廣建築設計事務所

製作者 高山・祭屋台保存技術協同組合

■ 連絡先

高山市 基盤整備部 都市整備課

〒506-8555

高山市花岡町 2丁目 18番地

電話 0577-32-3333

高山駅案内図



匠通り・JR高山駅

■ 建物の概要

東西自由通路やJR高山駅は、飛騨地域や周辺都市に赴く方々を迎える玄関口であるため、印象的で誰もが利用しやすい施設として整備を行いました。駅舎壁面には高山格子、内装には飛騨産の桧、「飛騨匠の技」を活用した展示品の数々。高山に降り立った方々が、期待感をもって目的地に繰り出すことのできる、高山独特の上質で重厚な空間となっております。

また、東西自由通路には、数々の「飛騨匠の技」を展示していることから「匠通り」、東西口には、高山市東西を象徴する名山があることから、東口は「乗鞍口」、西口は「白山口」として名付けています。

駅舎と匠通りの全景



西口駅前広場



改札と匠通り



部分屋台の展示



眺望スペースと匠通り



匠通り乗鞍口（東口）



屋台部品と修理道具の展示

